

オノマトペ音変換による 朗読

情19-0446 村田 一真
指導教員 米 朋子

1. はじめに

オノマトペは、漫画で用いられる擬音語物語の世界に没入させる効果がある。音読の1つである朗読は読み手聞き手効果を読み手は表現を行うことが出来るこれらの観点から、朗読を行う際に物語内に出てくるオノマトペをとして表現することで、より内容理解物語

2. 提案システム

オノマトペ効果音を付ける、物語の文章を形態素解析ツールを用いて解析、カテゴリに分類する。をPureDataを用いて朗読と共にする。

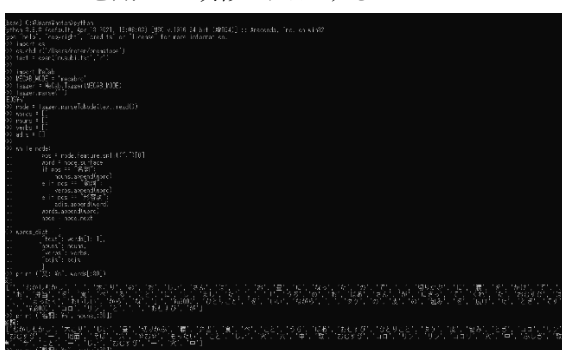


図1. 形態素解析

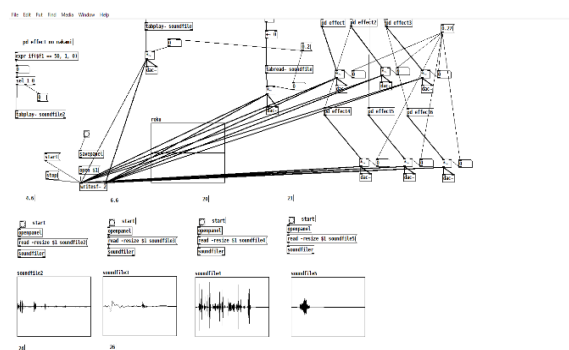


図2. PureDataを用いた朗読と効果音の結合

3. 検証

オノマトペを音に変換することによるを検証するため、14620名を対象に実験を行った。実験参加者は物語の朗読を聞に0～99の100段階で評価し

効果音朗読難度内容理解容易になるという仮説をもとに、効果音た結果、効果音朗読以外への注意の減少やイメージの明確化が得られ、集中力が向上し、朗読の違和感も減少し情景が浮か

効果音を強調することで、朗読難度内容理解が容易になるという仮説をもとに、効果音のボリューム要因 (A1:小さい, A2:普通, A3:大きい)た。結果、ボリュームを上げることによって集中力は向上する一方、違和感は増加した。

効果音を入れる場所によって、朗読難度・内容理解がという仮説をもとに、効果音のタイミング要因 (A1:朗読より早い, A2:朗読と同時, A3:朗読より遅い)た。

結果、効果音のタイミングが朗読より早い場合、集中力が低下し違和感も増加、効果音のタイミングが朗読より遅い場合、集中力が向上し違和感も減少した。早い

4. おわりに

本研究では、オノマトペを音朗読難度内容理解の容易化をつた。検証の結果、オノマトペを音による、集中力の向上や違和感の減少が見られた。

今後の展望として、今回の実験様々なジャンルの音使用集中力や違和感に影響を与えた可能性がある。効果音のジャンルを統一し、再度システムを改善して評価したい。また、オノマトペの効果音への変換が快適な朗読を聞かせることが示唆されたため、今後は効果音への変換による読み手への快適な環境づくりを目指したい。

参考文献

- [1] 奥村敦史, 齋藤豪, & 奥村学. (2003). Web 上のテキストコーパスを利用したオノマトペ概念辞書の自動構築. 情報処理学会研究報告自然言語処理 (NL), 2003(23 (2002-NL-154)), 63-70.
- [2] 中島加奈. (2014). 楽器音の言語化: 物語の効果音製作に関する考察 (1). 永原学園西九州大学短

期大学部紀要, 45, 33-46.

[3] 中島加奈. (2015). 言葉を楽器音で表現する: 物語の効果音製作に関する考察 (2). 永原学園西九州大学短期大学部紀要, 46, 21-31

